

2025年

文芸ふじさわ

第59集



文芸ふじさわ

第59集

藤沢市教育委員会（公財）藤沢市みらい創造財団

表紙のことば

A級ディングー・日本ヨット文化の曙

寒い一日でした。

絵の題材を求めて、ヨットハーバーへやってきました。

江の島湘南港ヨットハウス(通称)。りっぱな建物です。昭和39年の東京オリンピックのヨット競技会場として整備され、以後50年経ち新装しました。

敷地の一角、海に面する場所に一艘の木造ボートが置いてあります。2人乗り用の小さな船です。

名称は「A級ディングー」

はて、何のこと。

管理事務所の女性の職員の方にお尋ねしたら、わざわざ外へ出てその船の前で説明して下さいました。やっと了解。

ディングーとはエンジンを持たない、手漕ぎ人力帆走船を指すのだそうです。

初めて知りましたが、このボートが日本のヨット競技の発祥と礎に寄与した^{おおもと}大本だったようです。

歴史を^{ひもと}繙くと、1932年(昭和7年)に日本ヨット協会が設立に際し、ヨットマン育成の為、英国人Cockshott設計の12フィート・ディングーの製造権を導入し、公認レース艇として広く国内建造を進めたのが始まりとされています。…中略…

以後A級ディングーのレースは細々ながら存続、1991年(平成3年)全日本レベルの大会として、逗子湾で選手権が復活、2015年の西宮大会(25回目)に至っています。

こんな小さな木造船にそういう歴史があったとは、しばし感慨。

太平洋、大西洋に船出した日本の海洋人達も最初はこのA級ディングーで練習したのかもしれませんが…。

ここに立ち寄られたら、この小さなボートを是非ご覧になって下さい。操^{そう}舵^だしている自分に出会えますよ。

文芸ふじさわ

第59集

絵と文 蓮池高夫

目次

表紙のことば

「文芸ふじさわ第59集」によせて

短歌	7
川柳	19
俳句	39
五行歌	73
現代詩	85
随筆	93
編集後記	140
サークル紹介	146

「文芸ふじさわ第59集」によせて

藤沢市教育委員会

教育長 岩 本 将 宏

「文芸ふじさわ第59集」が発行されますことをお祝い申し上げますとともに、長きにわたり、文芸を愛されるみなさまとともに、発行を継続してこられたことに心から敬意を表します。「文芸ふじさわ」は、市民のみなさまが、「短歌」「川柳」「俳句」「五行歌」「現代詩」「随筆」の創作活動を通して、自分の思いを表現し、その作品を多くの方々に披露し、その作品をお互いに鑑賞しあう場となっています。

「文芸ふじさわ」のような文芸誌を読むことの魅力は、「ふと目にした文章との出会い」ではないかと思えます。収録された作品にたまたま出会い、雷に打たれたように感動したり、自分の心境にぴったりとマッチした文章を見つけたりした時の喜びはひとしおです。自分の気持ちを後押ししてくれるような、自分の考えを肯定してもらったような頼もしい思いになれることも作品との出会いの大きな魅力です。作品から新しい気づきを

もらったり、勇気をもたらったりすることも多くあると思いますし、落ち込んだ気持ちに寄り添い、励ましてくれる作品との出会いもあるかもしれません。

また、逆に作品をつくる時には、自分の気持ちをごどのように表現したら読む人の心に響くのか、文字数の制限の中で、多くを書かないからこそ想像力を掻き立てる表現を工夫するなど、作品づくりの魅力は無限に広がるのだと思います。そうして、作品づくりで切磋琢磨する仲間が交流できる場が、この「文芸ふじさわ」であり、そこに文芸を愛する人たちの「学びの環・人の和・元気の輪」が生まれていると感じます。

毎年、たくさん寄せられる作品を編集委員のみなさまが心を込めて編集され、発行されています。「文芸ふじさわ」が長年にわたり発行を続けてこられたのは、愛好者のみなさまが熱心に作品の投稿を続けてこられたことと、編集委員のみなさまの努力によるものです。みなさまには、この「文芸ふじさわ第59集」を心ゆくまで堪能していただきたいと思います。